

一般財団法人
山鹿市地域振興公社

経営状況説明書

令和2年度の決算に関する書類

1 事業報告書

2 決算報告書

(1) 収支計算書

(2) 正味財産増減計算書

(3) 貸借対照表

3 財産目録

令和2年度一般財団法人山鹿市地域振興公社事業報告書

令和2年4月1日から令和3年3月31日

1 総括事項

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律に基づき設立認可された一般財団法人山鹿市地域振興公社の令和2年度事業実施に当たり、山鹿市の「公の施設」5施設の指定管理を引き続き受託し、市民サービスの向上、福祉の増進に努めるとともに、市民の文化・観光及びスポーツ振興の積極的な推進を図った。さらに、自主事業及び公益目的事業を展開し、利用者の満足度向上に努めた。

前年度から世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症拡大の影響は、4月から5月にかけての国の緊急事態宣言の発出に始まり、一時的な収束と再拡大を繰り返しながら、年末の第3波の到来により、年初には11都府県に対し緊急事態宣言が再発出されるなど、未だ収束の兆しすら見えない一年となった。

そのような状況の中、受託施設管理については、山鹿市と連携し国や県の指針に沿った感染防止対策の徹底を図りながら、施設利用者と公社スタッフの安全確保の両立を最優先課題として徹底した取り組みを行った。

さらに、経営面では、コロナ禍による過去に類を見ない程の経営危機に直面し、国の持続化給付金や雇用調整助成金等をいち早く申請し対応にあたったが、これまで公社が築いてきた財政運営資金積立の取り崩しにより最終的な不足を補うこととなった。

また、コロナ禍により社会全体の在り方が大きく変化する中、働き方改革への取り組みを推進するとともに、ウィズコロナやポストコロナの時代の新たな施設管理の方向性についても考え直す契機となった。

2 事業の内容

(1) 自主事業・公益目的事業

ア 文化振興・福祉向上事業

(ア) 観光都市やまがをPRする人材育成を図るため「山鹿市旅先案内人養成講座」を実施し、市民によるボランティア活動を積極的に支援しながら、山鹿を訪れる観光客の受け入れ態勢の充実を図った。

(イ) 山鹿市旅先案内人の会による土・日祝日の山鹿灯籠民芸館内でのボランティア案内について、年間を通して、新型コロナの状況等を見ながら、可能な範囲での活動を行った。

(ウ) 八千代座において、市の委託補助が終了となった狂言・子ども歌舞伎教室等の「八千代座文化講座事業」については、本年度も公社の全額持ち出しによる事業として両教室を継続実施し、本市の文化振興と地域に根ざした舞台芸術の創造を図った。

(エ) 八千代座において、かつて映画館でもあったその歴史的役割と、地域で失われた映画鑑賞の機会の提供を目的に、平成20年(2008年)から毎年開催し今年で第13回目となる優秀映画鑑賞事業を行った。

- (オ) 八千代座を活用した舞台芸術活動として、熊本県立劇場等と連携したネットワーク型事業を活用し、落語公演「林家たい平独演会」や「桂南光独演会」等の公演事業を行った。
- (カ) 八千代座を活用し、教育活動としての演劇発表会への支援や映画や舞台芸能などを地域の方々と協働で実施することにより、山鹿の地域文化の振興と文化による子ども達の育成を図る「八千代座次世代子ども文化育成業」として20年目となる山鹿小学校演劇発表会を支援した。
- (キ) さくら湯において、年中行事である「菖蒲湯」「敬老湯」「父の日・母の日」の企画湯については、実施時期の新型コロナウイルス感染状況等に配慮し中止とした。また、「柚子湯」「金柑湯」については、感染拡大防止対策を徹底しながら予定通り実施した。
- (ク) さくら湯において、歴史ある山鹿温泉の元湯としての「温泉情緒」醸成のための取り組みとして、時季に応じた風鈴や簾、門松などの設置を行いながら、利用者や観光客に季節感を感じてもらい取り組みを行った。
- (ケ) さくら湯において、八千代座および山鹿灯籠民芸館と連携し行っている入浴料割引に加え、山鹿市立博物館・清浦記念館の入館券の提示でも割引を実施し、山鹿市を訪れていただく観光客へのサービス向上を図るとともに市内の回遊性の向上ならびに入浴者の増を図った。
- (コ) さくら湯において、市内小・中学校等の長期休暇に合わせて実施している子ども入浴無料の「早起き朝湯」事業について、入浴回数に応じた特典付きスタンプカードを導入し参加者の増加を図った。
なお、市内小学一年生及び金婚夫婦を対象とした龍の湯招待事業については、新型コロナの影響により中止となった。
- (サ) さくら湯において、山鹿市とともに企画から取り組んできた着地型観光商品・山鹿あそびについて、「池の間カフェ」については新型コロナの影響により休止し、「灯籠温泉卓球」については感染状況を見ながら期間限定で実施した。また、池の間を活用した生け花展や音楽コンサート、やまが温泉落語の開催支援など「山鹿湯町企画展」を実施し施設の活用を図った。
- (ソ) カルチャースポーツセンターにおいて、4・5月の国の緊急事態宣言に伴う施設閉鎖の影響はあったものの、フィットネスの新しい種目や夜のプログラムを取り入れたことで、参加者の減少を最小限に抑えることができた。
また、感染防止策としてトレーニング器具消毒清掃、密回避のために器具を2部屋に分散、またヨガ教室についても第2アリーナを使用し密回避するなどの工夫を行い、施設の利用活性化と市民の健康増進に取り組んだ。
- (タ) カルチャースポーツセンターにおいて、新型コロナウイルスの影響により各種大会や合宿が中止又は規模縮小となるなど、年間を通して大きな影響を受けた。また、そうしたコロナ禍のため、新規大会や合宿等の誘致が実現できなかった。
そのような中、今春より活動を開始した九州アジアプロ野球「火の国サラマンダーズ」球団関係者との以前から交流があったことと、山鹿温泉観光協会が積極的に支援、ご協力していただいたことで、初年度の春季キャンプの山鹿開催を誘致することができた。

- (チ) カルチャースポーツセンターにおいて、実施を予定していた天然芝を活用した「キックベースボール」事業と、市内保育園・幼稚園児対象の「野球場の天然芝で遊ぼう」事業は、新型コロナウイルス感染状況と参加者の安全等を考慮し中止とした。
- (ツ) カルチャースポーツセンターにおいて、開催を予定していた「CSCカップ少年野球大会」事業について、新型コロナウイルスの影響により他の県内での野球大会等の開催状況等を含め検討した結果、大会参加者の安全面に配慮し中止とした。
- (ソ) 山鹿灯籠民芸館において、令和2年度常設展として2020年3月に急逝された山鹿灯籠師「中島清氏追悼展」を開催。同氏の代表作である、法隆寺五重塔と中門を所蔵する熊本県伝統工芸館にご協力をいただき展示するとともに、同氏の父・中島二人氏、長男弘敬氏の作品も併せて展示し、親子三世代にわたる作品を展示し誘客を図った。
また、昨年の焼失から1年が経過した首里城正殿の復興支援を兼ねた企画展として、山鹿灯籠「首里城」を特別展示するとともに、首里城公園を管理する沖縄美ら島財団にも協力を頂き、首里城基金のチラシやステッカー等を来館者へ配布した。
- (タ) 山鹿灯籠民芸館において、山鹿灯籠振興会の「作ってみよう山鹿灯籠」制作キットシリーズを使用した制作体験ワークショップを実施し、山鹿灯籠を広くPRするとともに来館者の満足度向上を図った。また、コロナ禍に配慮し、人気の「擬宝珠ランプ」制作用の動画をホームページで紹介し、制作キットの販売促進を図った。
- (チ) 山鹿灯籠民芸館において、来館者へのおもてなし事業として本館でのミニコンサートを予定していたが、新型コロナウイルスの影響等を考慮し、開催を中止した。
- (チ) 市民交流センターにおいて、新型コロナウイルスの影響がある中、各種作品展示会などのホワイエ活用事業を継続して行い、年間を通して施設の利用促進を図った。
また、施設備品であるフルコンサートピアノを活用し、自らが演奏するピアノコンサートの雰囲気を経験する「フルコンサートピアノを弾いてみませんか」等を実施し、施設の特性や備品を活かした事業を実施した。
- (ツ) 市民交流センターにおいて、新型コロナウイルスの影響により、こもれび図書館の「図書館まつり」が中止となったため、それに併せて実施を予定していた山鹿灯籠民芸館との連携事業「擬宝珠制作体験ワークショップ」も中止した。
- (テ) 市民交流センターにおいて実施を予定していた、幅広い年代が楽しめる「肥後にわか」公演、文化ホールの響きや音響特性の良さを体験していただけの事業を計画していたが、新型コロナウイルスの影響にともない開催を自粛した。

イ 文化・スポーツ等の情報提供に関する事業

- (ア) 山鹿市名刺録を発行した。
- (イ) 会社のホームページ及びダイレクトメールを活用した情報発信を行い、施設利用者の拡大を図った。

ウ その他の関連事業

- (ア) 観光名刺台紙を販売した。
- (イ) 山鹿市のお土産品としてオリジナルグッズを販売した。
- (ウ) 山鹿の伝統的工芸品「(山鹿灯籠) 金灯籠」をモチーフとした手持ち灯り(姫灯籠)を販売した。また、手持ち灯りを活用した制作体験を実施した。
- (エ) 山鹿灯籠への理解を深め、親しんでいただき、山鹿灯籠民芸館の集客を図るために、「灯籠制作体験」を実施した。
- (オ) 山鹿市全域の観光情報等を発信する観光案内所及び観光レンタサイクルの充実を図った。

(2) 受託事業

次の各施設の管理運営及び受託業務にあたった。

「指定管理者制度施設」

- ア 八千代座等
- イ 山鹿市さくら湯
- ウ 山鹿市カルチャースポーツセンター
- エ 山鹿灯籠民芸館
- オ 山鹿市民交流センター

「受託業務」

- ア 山鹿灯籠踊り保存会及び観光振興業務
- イ 山鹿市立博物館の受付業務
- ウ 山鹿市情報発信拠点創り事業

3 事業収入に関する事項

公社の基本財産30,000,000円の運用利息3,008円、文化振興福祉向上事業費収入(公益目的事業収入)404,500円、文化・スポーツ等の情報提供に関する事業費収入及びその他の関連事業収入1,463,730円、「公の施設」管理運営等の指定管理料及び利用料金182,907,985円、雑収入9,586,626円、特定資産取崩収入19,337,000円、前年度繰越金73,188,886円(基本財産3,000万円含む)を加えた公社事業費総収入額は、286,891,735円であった。

4 事業支出に関する事項

自主事業(文化振興福祉向上事業、文化・スポーツ等の情報提供に関する事業、その他の関連事業)経費2,091,716円(公益目的事業含む)、「公の施設」管理運営等に伴う経費184,171,636円(公益目的事業含む)、管理費(公社事務局運営費)7,615,340円、特定預金支出8,789,000円、租税公課10,593,900円、公社事業費支出費総額は213,261,592円(内公益目的事業費1,992,152円)であった。

5 その他の事項

令和3年度(2021年度)への繰越金は、73,630,143円(基本財産3,000万円含む)である。